

## 令和3年度第4回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事要旨

日 時：令和4年3月10日（木）

13時30分～16時30分

場 所：青葉区役所7階会議室

出 席：島田委員長、荒井委員、小川委員、  
加藤委員、白石委員

※過半数の出席により委員会成立

### 1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 島田 福男

### 3 議事

(1) 議事録署名人選定 加藤委員

(2) 令和4年度まちづくり活動助成事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答意見等

#### ① くよみ郷土研究会

委員 2018年に設立して今年で4年目であり、会報もほぼ毎月発行されているということで、伺った限りではすごく充実した活動をされていると思う。今回活動助成に応募されたのは、ガイドブックの作成ということでよろしいか。

説明者 一番はガイドブックの作成である。もう一つは収支にもあるが、森にいる小動物について、2023年以降にまとめたいと思っているので、そのための手当をしたいというのが大きな主旨である。2023年以降はそのまとめをするということで、2年目3年目を使っていきたいと思っている。

委員 それからもう1点、調査交通費ということでタクシーとあるが、普段移動される場合にタクシーを使用されるのか。

説明者 普段使うことはない。街道歩きの終着点が大竹というところで結構勾配があるので、年長者が多いこともあり認めてもらえるのであればタクシーで戻ってきたいと考えている。

委員 ガイドブックであるが、みんなで歩いてその結果をまとめるというイメージか、それともまち歩き用に事前に調査をして、そのまち歩きの際に配るというイメージか。

説明者 ガイドブックのイメージは今掲示しているパネルである。パネルの情報に加えて、もう少し詳しく行程やかかる時間や、ビューポイントなどを織り込もうと考えている。

配布については1万枚を印刷し、地域の住民全戸に配布したいと思っている。観察ノートは小学生だったが、今回のガイドブックは、吉成中、南吉成中、青陵中等教育

学校といった中学校や、あとは市民センターでひらめきスクールというものをやっているが、その受講生にも配りたいと思っている。

委員 11人で発足したという話だが、現在は何名くらいで活動されているのか。

説明者 今は17名である。

委員 今回は助成を申し込んでいるが、日頃の活動はどのような資金などで活動なさっているのか。

説明者 今までは吉成市民センターから、人や資金の支援をいただいていたが、今後は市民センターから支援がいただけなくなることになり、何とか支援をいただきたいと思い申請した。そこにある観察ノートも市民センターの予算の中で作っていただいていた。

委員 同じエリアで珀杜さんが活動されているということで、連携して活動されているという話だったが、今回の助成のメインがガイドブックの印刷だとすると、今まで行っていた観察会や森の整備に関わる部分というのは、具体的にどのような活動や連携をしていたのか。

説明者 我々も青陵の森の整備はしている。我々は剪定の作業、珀杜がチェーンソーを使った刈り払いなどを行っている。彼らは働いている人もいるが、我々は大体が働いていないので、活動時間や曜日も異なる。ニッセイ緑の財団から支援をいただいて樹名板を65枚ほど作ったが、これも我々と珀杜さんで工数を分けて制作したり、あとは木のしおりを製作したときには、一緒に学校への贈呈式をやったりしている。

委員 多年代で取り組まれて森を守るという活動は素晴らしいと思う。今回は吉成市民センターから自立していくということで、活動費がすごく大事だと思う。例えばファミリー層の方や地域の子供も含めて、今の会員以外にも色々な方が関わられるような広報活動をすることも、今後は視野に入れていかれるといいと思う。

## ② WITH

委員 会員数は2名ということだが、2人とも主任児童委員なのか。

説明者 団体を立ち上げた2人については、主任児童委員は私だけである。やはり団体として立ち上げたばかりであり、名前を連ねていただくのはなかなか厳しいところがある。ただ一緒に活動してくれる仲間がエリアを越えて、主任児童委員を含めている。団体の中に名前があるのは2名なので、2人でできるのかという質問はもっともであるが、2人だけで行動するわけではなく、実際の実施日やその準備の都度には、手伝いの面々が声をかけてくれている。

委員 共催組織として児童館や市民センター、町内会、それから民児協、社会福祉協議会などを挙げているが、こういう団体は活動されていてそれなりの予算もあると思う。この収支予算を見ると、他の団体からの協力金をいただくことは考えていないのか。

説明者 今回初めて出しており実績がないので、もしどこも資金の協力がなかった場合という概算で考えている。共催団体からもお金を出していただければ、助成いただいたお金が余ることも考えられると思う。それぞれの地域団体がどのくらい協力してくれるか、金額の見積りができなかったのも、このような概算になっている。

委員 講師謝礼が30万円であり、結構金額が大きいと思う。こういうものに関しては社会

福祉協議会や連合町内会など、そういうところの協力をいただければもう少し楽になると思う。

それからもう1点、収入の部で企業の寄付として5万円とあるが、企業というのはどのような企業か。

説明者 今私たちがやっている子育てサロンは、主任児童委員としてやっているのだから企業の寄付はいただいている。今回は団体としてやるので、子供向けの災害時のアレルギー用の保存食などを扱っている企業に、商品を紹介するので寄付をいただきたいというような連携を考えている。

委員 その働きかけというのは既にやっているのか。

説明者 実際にお願ひするところまで至っていないが、お願ひする会社は何社か選んである。

委員 発表の中でご指摘されていたように、なかなか主任児童委員が実施するサロンにそれほどの予算がついていないのと、そもそも地域で子育て中の親御さんへの支援を提供するのが難しい中で、こういった案を出されていて素晴らしいと思う。

これから任意団体として立ち上げながら、今年度この事業を、予算を使ってやっていきたいということだと思うが、その場合認知症カフェと子育てサロンの区別がつきづらと思う。全く別々のものとして別の形でやるとすると、この50万円ぐらいの予算を会計しながら事業の企画もして、実施場所も予約し講師もすべて探してくるとなると、かなりボリュームが大きいと思う。子育てサロンと認知症カフェはどちらも地域の課題ではあると思うが、同時に初年度にやっていくのは難しいのではないかと思う。順番でいくとどちらを優先してやりたいとか、主任児童委員でいっちゃるということで、子育てサロンの方が何割ぐらいといった規模感を教えていただきたい。

また予算に関して、講師謝金に30万円使ってしまうと、他のところに使えなくて非常にもったいないと思っている。サロンだけでいうなら、話を聞ける主任児童委員がいれば、サロンの中でお話をしながらお母さんたちの気持ちを聞くだけでも十分やっていけると思うが、講師を予定されている保育士や鍼灸師、ブックトークといった方々は認知症カフェなのかそれとも子育てサロンなのか、講師の方が実施するサロンの内訳、この7回の中身を簡単でもいいので教えていただきたい。

説明者 講師謝礼が大変大きい割合を割いているという点だが、今までは保育士さんと呼ばずに主任児童委員だけでサロンをやっていた時期もあった。きちんと免許を持って今現在お仕事されている保育士さんと呼んでの相談会と比べると、お母さん方の満足度が大きく違ったので、やはりきちんと免許を持って生業としている方に責任を持ってお引き受けいただきたいというところで謝礼に予算を割いている。

無料でのボランティアは素晴らしいと思っているが、既存団体の活動が続かない、次の担い手がないことの大きな原因に、何もかもボランティアでお願いしている点があると思っている。お願いした先生のほうが講師料は要らないと言ってもらえればそれでいいと思うが、最初から低額や無料でやってくれという話だと、後々続かなくなると思っているのだから、予算を大きく割いている。

委員 そういう意味では、連携されている児童館や子育て支援センターの先生、のびすくから講師を派遣する場合は、たぶんお金は一切かからない。また保健センターの家庭

健康課で保健師に来ていただくなら、そちらもお金はかからないと思う。保育士の先生は支援センターの先生ならば、地域を越えても無料で来てくださると思うが、その辺との連携はどうなっているか。

説明者 今実際に支倉保育所の子育て支援の担当の保育士さんに毎月来てもらっており、市のところからお呼びしたときにお金がかからないことは知っているが、月に1回来てもらっただけでも、スケジュール的にもう何とかお願いしている状況である。この7回は仙台市の子育て支援センターの先生をお呼びするのではなく、別の場でやってみたいと思っている。

それから認知症カフェと子育てサロンの境目ということだが、今回のこのまちづくり活動ということでの申請だったので、高齢者対応と子供対応が違うのは重々わかっているが、どちらもまちづくりの観点ということであえて分けずにまとめて挙げている。メインとなるのはどちらかという点だが、どちらも運営は我々1団体でやるのではなく、すでに若干活動のベースがある、細々ながらもやっていたところと協力して行うので、何もないところから1から立ち上げて企画するというのではないので、十分可能ではないかと思っている。吉成の児童委員さんや児童館など、すでに何件か一緒にやりたいという話があるが、コロナの影響で具体的な話ができていない状況である。

### ③ 八幡町商店街ファンコミュニティ

委員 SDGsのセミナーだが、出席者は商店主の方ということでよいか。

説明者 広く皆さんに告知するので、商店主だけでなく地域の方も予定している。基本的にハイブリッド方式でやる予定なので、現地で参加できない方でも、オンラインで参加していただけるような形を作っていきたいと思っている。

委員 そうであれば、例えば参加者から少し会費を徴収して、開催費の方に回すといったことも、受益者負担という考え方ではあってもいいと思う。

委員 会員数57店舗ということで、若い方を中心にして地域を盛り上げていくのはすごく素晴らしいと思う。収支の方で講師料が25,000円×2時間で50,000円、それから事前説明会は15,000円×2時間で30,000円と結構な額になるので、やはり参加者からそれなりの参加料を取った方がいいと思う。

説明者 その辺も検討していきたい。

委員 昨年もやっていたと思うが、昨年はどうのような収支構造だったか。それから今回の申請の主たるところはSDGs東北への委託という形になるのかを確認したい。

説明者 昨年はプレイベントのような形に考えていた。SDGsとうほくさんからアドバイスをいただいて行っており、本格的なセミナーはできなかったが、はちまんSDGsハロウィン2021ということで、昨年は我々のできる範囲でテスト的なイベントとしてやってみた。それで皆さんに興味を持っていただき、これから今来年度は本格的に皆さんで勉強してみようという形に考えている。基本的にはSDGsとうほくさんに委託して、いろいろ指導方法や内容の細かいところをお願いしているという状況である。

(3) 令和4年度まちづくり活動助成申込事業の評価及び選考

① 特定非営利活動法人 珀杜

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・地域共有の宝として学校林を生かすことは大切だと思う。
- ・ハチや危険木をなくして、安全安心に利用できる森にしていきたい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 300,000 円とすることが妥当である。

② 白沢カルデラプロジェクト実行委員会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・白沢カルデラは地域独特の資源だと思うので、大切にしていきたい。
- ・白沢カルデラの存在を多くの方に知ってもらいきっかけにしていく必要があると思う。
- ・看板ありきではないほうが、地域の魅力発信には有効だと思う。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 450,000 円とすることが妥当である。

③ 一般財団法人 仙台 YWCA

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・限られた会員の方の交流にとどまらず、広報活動等で広く参加できる方を募集すると活動の輪が広がると思う。
- ・事業の成果を、より多くの方々に知ってもらい工夫が必要だと思う。
- ・受益者負担の観点から、お茶菓子代の他に講師謝金も含めた分として参加費を徴収するなどにより、収入を増やしていただけるとよいと思う。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 180,000 円とすることが妥当である。

④ セカハピ団 仙台青葉本部

(ア) 協議結果：助成事業として採択しない。

(イ) 評価委員からの意見

- ・地域での交流も増やして活発な活動に発展することを希望する。
- ・自立運営に向けた工夫を考えていただければと思う。
- ・10月～3月の期間を事業紹介や次年度へのつなぎに利用してみてもいいかと思う。

- ⑤ せんだい 21 アンデパンダン展実行委員会
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・地域の活性化を、美術と街歩き、誰でも一般の人が出演したり観ることができるというコンセプトで行うことが素敵だと感じた。
  - ・街歩きや街中の回遊性につなげるような工夫をご検討ください。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 300,000 円とすることが妥当である。
- ⑥ 定禅寺リビングストリートプロジェクト
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・テーブルや道路のセッティング等、市民に協力も求め、範囲も広げていくなど、地域性の部分での工夫を感じる。
  - ・出店料収入の増額、助成金減額など、自走を意識した計画となっている。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 343,000 円とすることが妥当である。
- ⑦ 一般社団法人 IKI ZEN
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・告知や広報を広げて行っていただきたい。
  - ・自己資金や協賛金の獲得など、助成終了後の資金繰りを考えていただきたい。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 350,000 円とすることが妥当である。
- ⑧ 栗生の民俗をたずねる会
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・歴史の貴重な継承事業となると思う。地域伝統の芸能を次世代に伝えていくことは大切なことと思う。
  - ・冊子の作成、配布により、地域の方への理解が広がり、今後の活動の協力者や応援する方が広がるのではないかと思う。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 331,000 円とすることが妥当である。
- ⑨ くよみ郷土研究会
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見

- ・地域にどのように愛着を持ってもらうかについて、よく考えられている。
- ・地域の森での活動を他団体とも連携して行われていて、整備にとどまらず開かれた事業だと感じる。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 190,000 円とすることが妥当である。

#### ⑩ WITH

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・主任児童委員のスキルやつながりを活かして、必要な支援を実施されたいとのことで、課題解決の方法として興味深いと思う。
- ・連携する共催団体との具体的な役割分担や予算等をよくすり合わせて、具体的な計画を立てていただきたい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 200,000 円とすることが妥当である。

#### ⑪ 八幡町商店街ファンコミュニティ

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・SDGs について、生きた実践例を商店街で取り上げ、子どもたちと取り組んでいくという発想が素晴らしいと思う。
- ・商店街だけではなく、地域の資源を活用する姿勢は良いと思う。
- ・来年度で学ぶ SDGs をどう生かすのかが明確になればよいと思う。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 350,000 円とすることが妥当である。

(3) その他

4 閉会